

指数テーブル使用方法

1. 指数テーブルの使い方

1-1. 指数テーブルとは

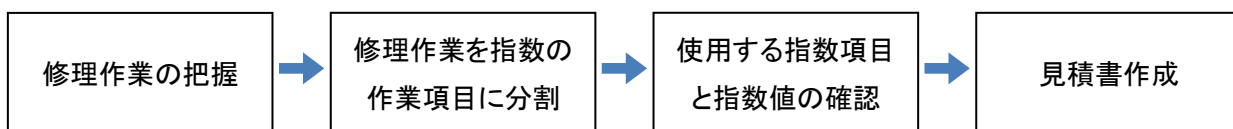
自研センターが作成する指数は、指数テーブルとして発刊※されています。この指数テーブルの目的は主要な作業について、「標準的な復元修理の作業時間を的確にかつ容易に把握すること」です。

見積書の作成において指数テーブルを活用するには、まず事故車の復元修理作業の段取り・手順を具体的に把握し、その一連の作業を指数テーブルが適用できる“作業項目”に分割することが必要です。この時、指数テーブルの摘要欄の表記は、構造や組付け方法が異なる個々の事故車の分解組立手順や、見積り作成時に起こり得る作業項目の漏れや重複の防止の参考資料とすることができます。そして、これらを活用することにより、指数を用いた見積書を作成することができます。

※コグニビジョン株式会社より発刊

1-2. 指数テーブルを活用した見積書作成の流れ

「脱着・取替指数」と「補修塗装指数」の場合



それでは、ここで例を用いて実際の指数テーブルを活用した見積りの仕方を説明します。

車両前部が損傷したある乗用車（図1）を例に復元修理の見積りを考えてみます。

損傷調査の結果、表1に示すような損傷部位と損傷程度の所見が出たとします。

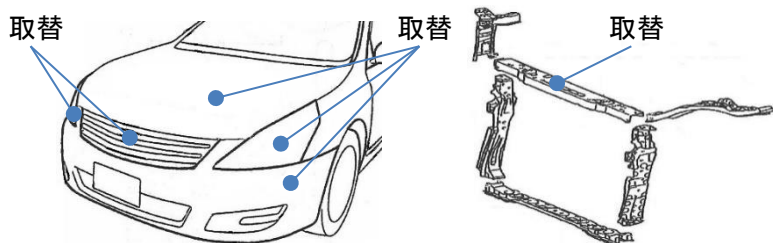


図1 損傷車イメージ

(損傷部位)	(損傷程度)
1. フロントバンパ	取替
2. ラジエータグリル	取替
3. ヘッドランプAssy	取替
4. ボンネット	取替
5. ラジエータアツパサポート	取替

表1 損傷調査結果

次にこの車両の復元作業手順を考えます。修理しなければならない部位で、車体の一番深い所にあるのはラジエータアツパサポートです。

この部品を取替るために車両を分解していかなければなりません。

そこで指数テーブルの指数項目「B125 ラジエータアツパサポート取替」を見ると、フロントバンパから両側ヘッドランプまでを取外した状態からの作業の指数となっていることがわかります。

B125	
ラジエータアツパサポート取替	
○. ○	取外し状態
	・フロントバンパ ・ラジエータグリル
	(含)作業および部品
	・付属品

表 2 指数テーブル表 指数項目 B125

フロントバンパから両側ヘッドランプまでを取外しラジエータアツパサポートの取替が済むと、今度は脱作業と逆の手順で組付け作業が必要です。

こうして指数テーブルを活用しながら作業順序を並べてみると、以下のようになります。

〈取外し〉	〈組付け〉	指数項目No.	〈対応指数項目名〉	〈補修塗装〉
↓	↑	B020	フロントバンパ取替	・ボンネット
		B030	ラジエータグリル取替	(外板パネル補修塗装指数)
		B040	ヘッドランプ Assy 取替	・ラジエータアツパサポート
		B070	ボンネット取替	(内板骨格パネル補修塗装指数)
		B125	ラジエータアツパサポート取替	※未塗装の場合
				・フロントバンパ (樹脂バンパ補修塗装指数)

表 3 復元修理作業の指数作業項目分割

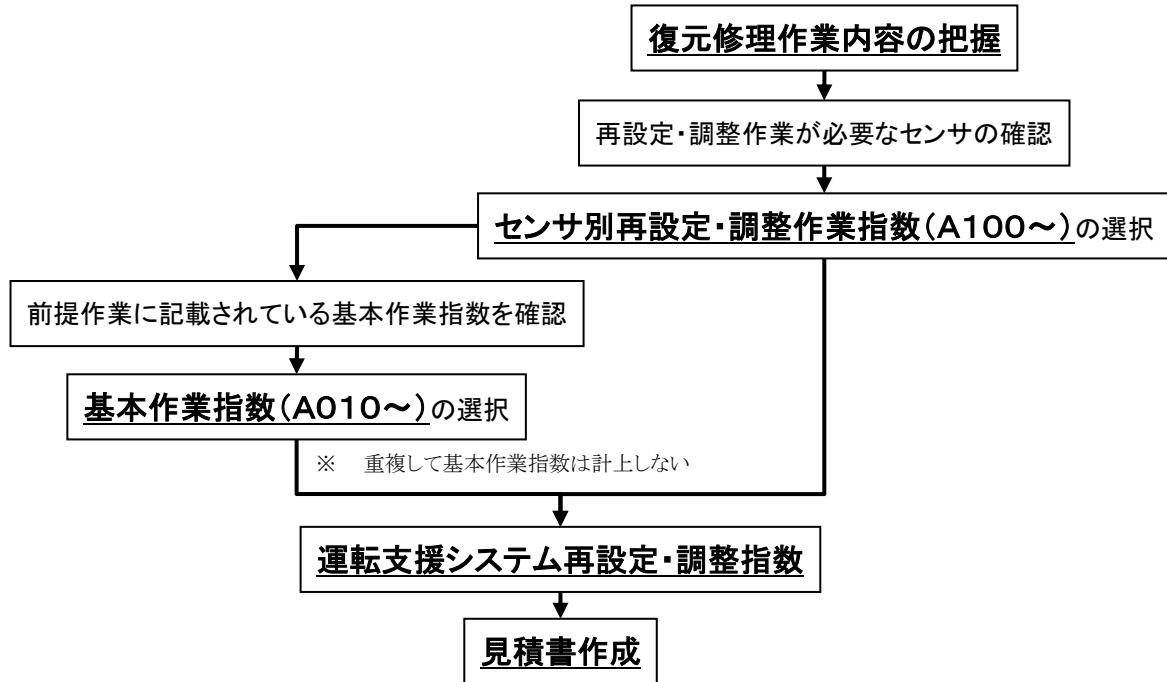
一連の復元作業が、指数テーブルの指数項目に分割できたことになり、関係作業項目の指数を加算することで脱着・取替の合計指数がわかります。また、これに補修塗装の指数を加算すれば、復元修理の指数の総計が求められます。

1-3. 指数テーブルを活用した見積書作成の流れ

「運転支援システム再設定・調整指数」の場合

運転支援システム再設定・調整指数は脱着・取替や補修塗装といった、復元修理作業完了後の完成検査前に実施する、センサの再設定・調整作業に適用します。

その際の見積書作成までのフローは下記のようになります。



それでは、ここで例を用いて実際の指数テーブルを活用した見積りの仕方を説明します。

1-2.で復元修理を行った車両に取付けられているセンサ（図2）を例に運転支援システム再設定・調整作業の見積りを考えてみます。

復元修理作業の結果、表4に示すような再設定・調整作業が必要と所見が出たとします。

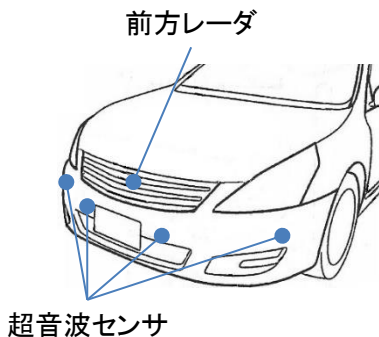


図2 センサ取付位置イメージ

(対象センサ)	(再設定・調整作業要否)
1. 超音波センサ	要
2. 前方レーダ	要

表4 再設定・調整作業要否

次に見積書作成のフローに従い、超音波センサと前方レーダのセンサ別再設定・調整作業指数の前提作業に記載されている基本作業指数を確認します。

記載されている基本作業指数の指数値を合算しますが、この時、基本作業指数については重複して計上しないので、表5、表6のように③（A010（1）運転支援システム再設定・調整基本作業）は1回のみ計上する。

最後に、超音波センサと前方レーダのセンサ別再設定・調整作業指数の指数値を計上することで、必要になる運転支援システム再設定・調整指数の総計が求められます。

A110		A010	
(1)超音波センサ再設定・調整作業フロント		(1)運転支援システム再設定・調整基本作業	
0.50^①	前提作業	0.20^③	前提作業
	・運転支援システム再設定・調整基本作業		—
	(含)作業および部品		(含)作業および部品
A130		(2)スキャンツール接続作業	
(1)前方レーダ再設定・調整作業		前提作業	
0.60^②	前提作業	0.30^④	—
	・運転支援システム再設定・調整基本作業		(含)作業および部品
	・スキャンツール接続作業		
(含)作業および部品			

表5 運転支援システム再設定・調整指数テーブルの例

センサ別再設定・調整作業指数			基本作業指数			
0.50	+	0.60	+	0.20	+	0.30
① A110(1)			② A130(1)			③ A010(1)
						④ A010(2)
						= 1.60

表6 運転支援システム再設定・調整指数テーブル算出例